

華やかなハプスブルグ家の栄光を今に伝え
様々な芸術運動の結実が随所に見られる
住む人にプライドと豊かさをもたらす街

21世紀のウィーンを散歩しよう



ハプスブルグ家の栄光の象徴、シューンブルク宮殿。

今年の夏、欧州全体が猛暑に見舞われ、南欧各地で熱波による死者が伝えられた。内陸国のオーストリアでも気温が上昇、観測史上例を見ない高温の夏となった。

元々、夏は涼しいので、エアコンなど必要のない国だ。だから、名物のカフェなどは外光を沢山取り入れるため、窓ガラスは大きく、まるで温室状態。

しかし、そんな暑い夏に負けるウィーンっ子たちではない。昼はテラス席の木陰でのんびりと過ごし、夜はお待ちかねの屋外パブやビアガーデン。特に夏の2

カ月、市庁舎前の広場に巨大なスクリーンが登場、毎日有名なオペラ映画などが上映され、またその周囲には各国料理と生ビール・ワインを呑ませる屋台が数十も出現。連日連夜多くの人で遅くまで賑わった。美術館が沢山集まった『ミュージアム・クォーター』でも中庭のカフェが深夜まで大盛況。この夏の猛暑はウィーンっ子を夜更かしにさせたようだ。

旧市街の中心に位置するシュテファン寺院。そこで記念のミサが開かれていた。近隣の各地から民族衣装に身を包み、パ



ウィーといえばこの人、ヨハン・シュトラウス像。



映画祭りの一コマ。



よく働くカフェ・バーの娘さん。



とんでる!? ウィーン娘。



ウィーンの繁栄を見守りつづけるシュテファン大聖堂。



特別ミサ。



大聖堂へ心のこもった食べ物を捧げる。

ン・花などの捧げ物を持った老若男女が集まって、熱心に神に祈る様子は、かつてハプスブルグ家を支えた純朴な国民の姿を見ているようだった。その寺院の周囲を多くの観光馬車がのんびりと行き、さらにその外側を超高級車がタイヤを軋ませ、走り去る。古さと新しさが調和した、住む者と訪れる者の心を豊かにしてくれる街。そんな印象を持って、この街を後にした。



仲良くアイスクリーム。